

プロロゴ（序章）2014年4月より

それはまるで小さなバラが雨のように降り注ぎ、おびただしい黄色の蝶が舞っているようだった。人々は黄色のバラの花や手作りの蝶を持って駆けつけた。なかには黄色い風船を持っている人もいる。だからあたりはイエロー色だ。4月17日、文豪ガボ逝去の報が世界を駆け巡った。「百年の孤独」で82年にノーベル文学賞を受賞したガブリエル・ガルシア・マルケス（愛称ガボ）の悲報だった。とりわけ彼の生地コロンビアやそれまで第二の故郷として住んでいたメキシコは元より中南米やスペインにも衝撃が走った。いち早く《マコンド》の電報局にもその報が届いたはずだ。それはまるでコロンビアとメキシコの本家争いのように勝呂には思えた。大聖堂の外では大画面が中の模様を映し出している。そしてガボが好んだバジェナート（コロンビアの民族音楽）も奏でられた。葬儀は三ヶ所で行われたのだが、なんとガボの遺体が収められた棺を前にして最後の別れができた者は誰ひとりとしていなかったという。ガボの死後直ちに家族だけで密葬を行い、翌日には茶毘に付されていたからだ。マリア・ドゥルセは続けた。「ガボは自分の死がきつと多くの混乱を招くに違いないと予期していて、生前から身内には死後すぐに茶毘に付すように言い渡していたのだわ。だってガボこそ『死と葬儀の魔術師』だものね。現にもう始まっているでしょ、取り合いが。見た？メキシコとコロンビアの大統領のあの慌て様を。それにしてもマリア・ドゥルセの言う“多くの混乱を招く”とは。“メキシコとコロンビアの大統領の慌て様”とは。

2014年4月21日ガボの葬儀（メキシコでの追悼式）の模様を追跡



Mexico

メキシコではペーニャ・ニエト大統領がいち早くベジャス・アルテス芸術宮殿で葬儀を執り行った。この葬儀にコロンビアからサントス大統領が急遽駆けつけた模様も映し出されている。



AP News AFP

2014年4月22日ガボの葬儀（コロンビアでの追悼式）の様を追跡

Colombia

別の動画では翌日自国に取って返したサントス大統領がボゴタ大聖堂でモーツアルトのレクエムが流れる中、告別式を執行了。それはまるでコロンビアとメキシコの本家争いのように勝呂には思えた。生地アラカタカ（マコンド）でもガボへの別れと感謝を告げる人びとで埋まった。コロンビアでは多くの国民が3日間喪に服したという。



ARCHIVO FOTO: @UNI_CARTAGENA

ガルシア・マルケス カルタヘーナ大学ラ・メルセ回廊に埋葬の様



Colombia

2016年5月23日カルタヘーナ大学ラ・メルセ回廊の記念碑に埋葬 「私がカルタヘーナに住みたいと思っていることは人々に知られていますが、いつかここに埋葬されたいと思っています。」ガルシア・マルケスの友人であるジャーナリスト兼作家のファン・ゴサインの言だった。「ガボの遺骨がここに眠っている最も強力な理由は、彼自身がそうあって欲しいと望んでいたからです。」



El Espectador, El Universal, FOTO: @UNI_CARTAGENA, Claustro de La Merced. ARCHIVO

メルセデス・バルチャ カルタヘーナ大学ラ・メルセ回廊のガボの隣に埋葬の模様を追跡

Colombia

ガボの妻メルセデス・バルチャ2020年8月15日メキシコシティで死去。2022年3月25日カルタヘーナ大学ラ・メルセ回廊の記念碑のガボの隣に埋葬された。



~@UNI_CARTAGENA, Claustro de La Merced. ARCHIVO

父ガルシア・マルケスの思い出 さようなら、ガボとメルセデス (ロドリゴ・ガルシア著 中央公論新社)

父ガルシア=マルケスの思い出



Gabo y Mercedes: una despedida' Archivo, EFE/Centro Harry Ransom, Banco de la República de Colombia

ノーベル賞作家ガブリエル・ガルシア・マルケスとメルセデス・バルチャの長男であるハリウッドの著名なコロンビア人映画監督ロドリゴ・ガルシア・バルチャによる両親の晩年の追想記。特に父親に対する複雑な思いを冷静に、優しく振り返り、最終ステージが到来するまでの非常に困難な状況を感動的に伝えている。

- ・母メルセデスが読むことができなくなるまでこの本を公開しない。
- ・父が何度も言っていたことだが、母メルセデスは父が知ったもっとも驚くべき人物だった。
- ・母は「うちは有名人とかじゃないんだから」と僕らを教えさとしていた。
- ・公的なものと私的なもの間の一線を厳格に守るという点で母を満足させておかねばならなかった。—これは母にとってもものすごく重要だったことなのだ。
- ・母は「蘇生医療はしない」と決めていた。
- ・だが父の病状はこれから完全に私的な出来事でなくなるのだ。
- ・母は突然、何の脈絡もなく僕に言う。「あらかじめ準備しておかないとね。まるで動物園みたいなことになるんだから」父が死んだときのメディアの反応や世界中の読者や友人達の反応のことを言っているのだ。
- ・父はしばしば、自分の成功は自分の力で勝ちとったものではなく、偶然彼の身に起こったことのように感じていた。トルストイ、プルス、ボルヘスもノーベル賞を取っていない。彼のお気に入りの作家、ヴァージニア・ウルフ、フアン・ルルフォ、グレアム・グリーンの誰も受賞しなかったと繰り返した。

- ・父は死に関して大嫌いなのは、自分の人生の中で、唯一これについてだけ、自分には書くことができないからだ、と文句を言っていた。
- ・通り過ぎていく追悼客の顔をより注意深く見てみる。父がかって、人間には誰でも三つの人生がある、公的な人生、私的な人生、そして秘密な人生だ。と言ったのを僕は思い出している。
- ・父の死により、兄弟と両親で構成された**4人クラブ**「El club de los cuatro」は解散した。
- ・父親の死後直ちに茶毘に付され密葬されたが、事前の火葬の是非の協議については語られていない。

ガブリエル・ガルシア・マルケスの遺灰 Wikipedia「ガブリエル・ガルシア・マルケスの死と葬儀」より引用

Lost Tablet 追跡ノート：マリア・ドゥルセの言う“多くの混乱を招く”とは。そして“メキシコとコロンビアの大統領の慌て様”とはこのことだったようだ。(Muerte y funeral de Gabriel García Márquez)

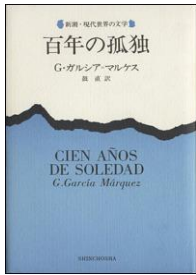
- ・2014年4月17日に彼が亡くなると、作家の遺骨が眠る場所について疑問が生じ始めました。**彼にとって最も意味のある国は、メキシコと彼の母国コロンビアでした。**1つ目は、ノーベル文学賞(1982年)であり、魔法のリアリズムの巨匠が1961年以来、半世紀以上にわたって彼の人生のほとんどを過ごした場所でした。
- ・彼の死から1日後の朝、彼の遺灰がどこに眠るのかはまだわかっていませんでした。家族は非常に親密な儀式で火葬を行うことを決定し、彼らに最も近い人々が同伴するだけで、それ以上の報告は提供しませんでした。
- ・ガルシア・マルケスの故郷である**アラカタカ**のトゥフィス・ハトゥム市長は、遺灰を持つことは「カタケロスである私たちにとって名誉なこと」であると述べ、ファン・マヌエル・サントス大統領に、遺灰をコロンビアに持って行き、その都市に遺灰を預けるために必要な手続きを行うよう依頼しました。
- ・4月18日(金)、ガブリエル・ガルシア・マルケスの家(ペドレガル・デ・サン・アンヘルにある)の前で、ホセ・ガブリエル・オルティス(未亡人メルセデス・バルチャと話した後)、メキシコのコロンビア共和国大使は、**作家の火葬から生じた灰の運命**を報道陣に知らせました。彼の言葉は、「メキシコには、もちろん、少なくとも一部があり、後で別の部分をコロンビアに持って行くことができますと思います。そして彼の遺灰の一部はそこに眠っています。」

年譜

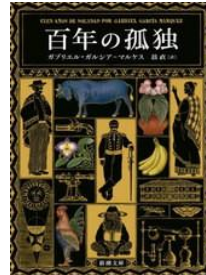
1967年: 「百年の孤独」刊行
1975年: 「族長の秋」刊行
1982年: ノーベル文学賞受賞
1985年: 「コレラの時代の愛」刊行
1989年: 「迷宮の将軍」刊行
1999年: 悪性リンパ腫闘病。寛解状態になる。
2012年: 認知症により、もう執筆できないことが公表される。
2014年: 4月17日ガルシア・マルケス、メキシコ・シティで死去。87歳
4月19日: 火葬後家族密葬
4月21日: メキシコで、翌22日にコロンビアで追悼式が行われた。
2016年5月23日: ガボ、カルタヘーナ大学ラ・メルセ回廊の記念碑に埋葬
2020年8月: メルセデス・バルチャ、メキシコ・シティで死去。
2022年3月25日: メルセデス、カルタヘーナ大学ラ・メルセ回廊のガボの記念碑に埋葬

ガボとメルセデスそして息子ロドリゴが「百年の孤独」に登場していた。

ガブリエル・ガルシア・マルケス（ガボ）は自著の「百年の孤独」に作者自身をモデルにした人物を書き入れていることはよく知られているのだが、苦労をかけた糟糠（そうこう）の妻メルセデスも実名でしっかりと感謝を込めて登場させている。そして息子のロドリゴの名も。（三人のフルネーム：**ガブリエル・ガルシア・マルケス**、**メルセデス・バルチャ・パルド**、**ロドリゴ・ガルシア・バルチャ**）



EFE/Centro Harry Ransom



Centro Gabo

鼓直 訳 新潮社初版 37刷 (1991年9月)
288～305ページの中に登場

鼓直 訳 新潮文庫改訳版 (2024年6月)
583～620ページの中に登場

- ・ **ガブリエル**という四人の論客の一人として登場
- ・ **ガブリエル**はアウレリャノ・ブエンディア大佐が実在の人物であることを疑わなかった。
- ・ **ガブリエル**の秘密の恋人である**メルセデス**が住むマコンドでただ一軒の**薬屋**の、
 - ・ **ガブリエル**が懸賞に当選し、・・・**パリ**に発ったときも、
 - ・ 物静かな**薬剤師**の**メルセデス**を通して受け取る**ガブリエル**の消息以外に、
 - ・ **メルセデス**が一ダースほど買ってくれただけで、
 - ・ 「名前は**ロドリゴ**にしましょう」